

4. 花きの輸入・輸出

(1) 花きの輸入①(輸入の推移)

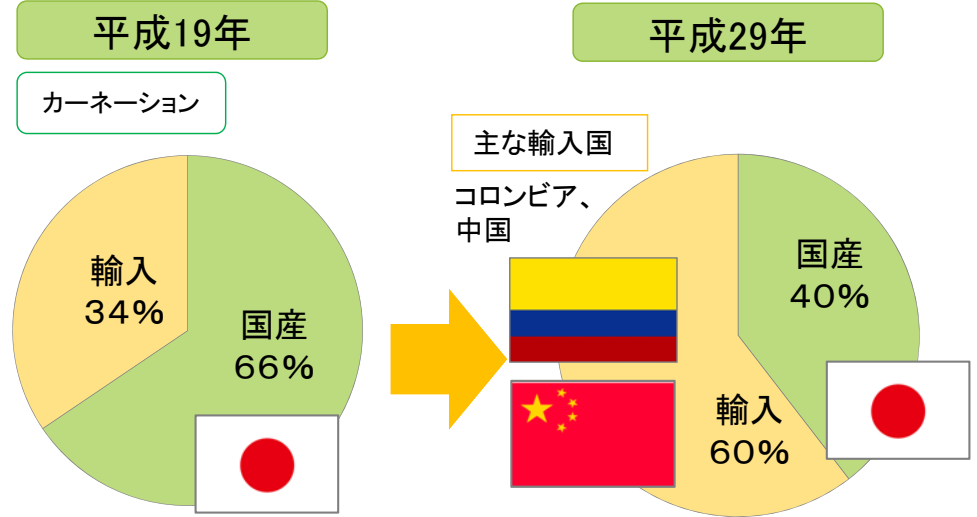
- 花きの輸入は、切り花類が大半を占め、関税が廃止された昭和60年以降増加傾向であり、主な相手国は、コロンビア、マレーシア、中国。
- 品目としては、日持ち等品質向上によりカーネーション、キクの増加が顕著。

＜切り花の国内出荷量・輸入量の推移＞ (億本)

	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	H28	H29
国内出荷量	42.5	53.2	55.8	55.9	50.2	43.5	38.7	37.8	37.0
輸入量	1.2	3.6	6.6	8.3	10.4	13.2	12.7	13.1	13.4
計	43.7	56.7	62.4	64.2	60.7	56.7	51.4	50.9	50.4
切花輸入割合 (数量ベース)	3%	6%	11%	13%	17%	23%	25%	26%	27%

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」、「植物検疫統計」

＜切り花の輸入割合の推移(カーネーション、キク)＞



＜切り花の主要品目別輸入割合・輸入量(H29)＞

品目	輸入品の割合	輸入量 (億本)	主な輸入国					
			1位	割合	2位	割合	3位	割合
カーネーション	60%	3.67	コロンビア	69%	中国	20%	エクアドル	7%
キク	18%	3.35	マレーシア	58%	ベトナム	22%	中国	16%
バラ	20%	0.63	ケニア	40%	インド	18%	エチオピア	11%
ユリ	4%	0.06	韓国	87%	ベトナム	6%	台湾	5%

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」、「植物検疫統計」

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」、「植物検疫統計」

4. 花きの輸入・輸出

(1) 花きの輸入②(輸入割合増加の具体例: 国内産及びコロンビア産カーネーションの比較①)

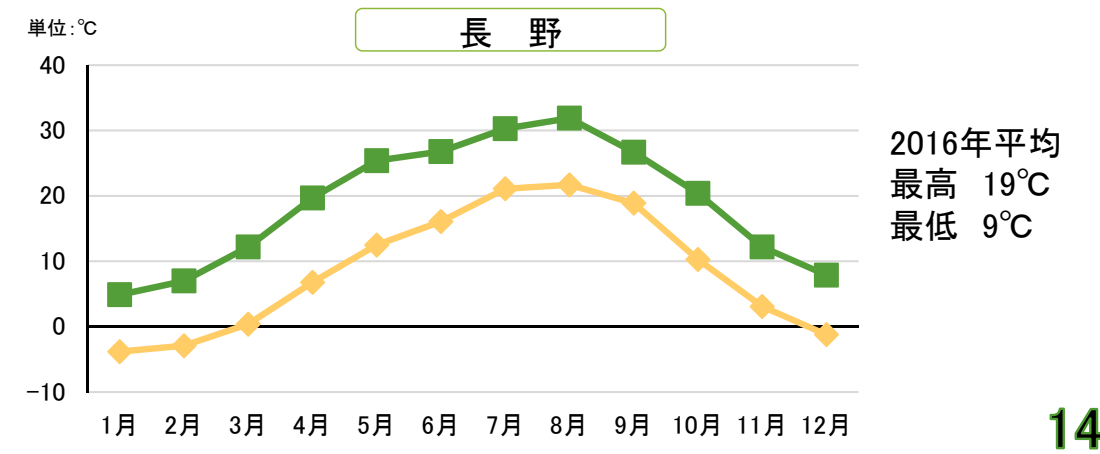
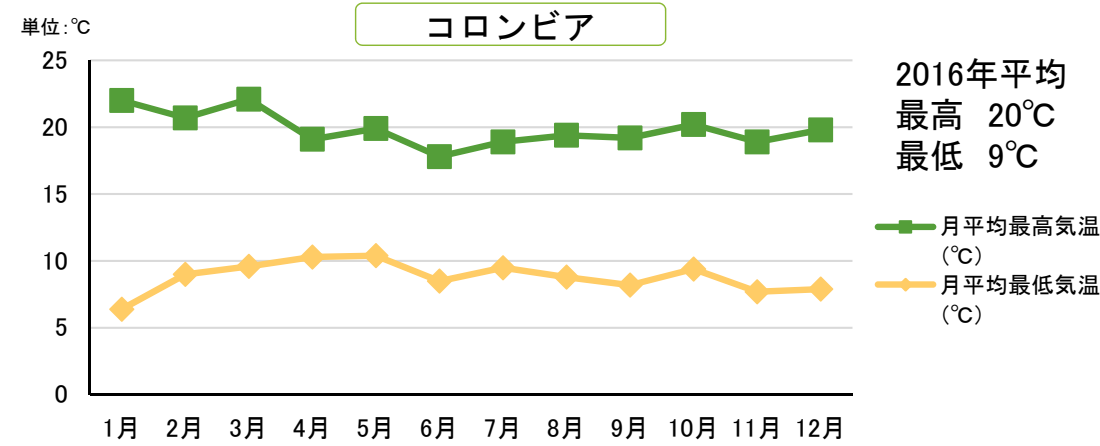
- 年間平均気温は日本とコロンビアでほとんど差はないが、月別で見ると、コロンビアは年間を通じてほぼ一定であり、加温施設等が不要。⇒設備費、光熱費(特に燃油)等が不要。
- コロンビアは四季がないため、生産地が季節で移動することなく、周年で安定供給が可能。
また、1日の寒暖の差が大きく、カーネーションの発色や生育には最適。
- コロンビアの花き生産は、一部の富裕層による農地及び付随する福利厚生施設等の整備、アメリカによる転作指導、コロンビア政府の国内治安改善策がうまく合致したことからスタート。

カーネーションの生産概況の対比

日本		コロンビア
301ha (2016年)	面積	933ha (2016年)
117億円 (2016年)	産出額	234億円 (2016年輸出額)※1
		(うち対日輸出額72億円)
最高19℃ 最低8.6℃	年間平均気温※	最高20℃ 最低8.8℃
1,500m前後	標高※	約2,600m

※1 1ユーロ=122円とした(H28年平均外国為替相場より(三菱UFJリサーチ&コンサルティング調べ))
 ※2 年間平均気温、標高は長野及びポゴタの生産地近辺のもの
 資料: 農林水産省「花き生産出荷統計」、「生産農業所得統計」(面積、産出額)
 International Statistics Flowers and Plants 2017(AIPH出版)(面積、コロンビア輸出額)
 国土交通省気象庁「世界の天候データツール」(平均気温、標高)

平均気温の比較



4. 花きの輸入・輸出

(1) 花きの輸入②(輸入割合増加の具体例:国内産及びコロンビア産カーネーションの比較②)

- コロンビアの1本あたりの原価は日本の半分以下(流通経費含まず)。
- 日本では、灰色カビ病は一般的な病害であるが、コロンビアでは気象条件や栽培環境の面から発症リスクが低い。
- コロンビアは、採花後の温度管理や抗菌剤等の鮮度管理も徹底している。日本では採花後の処理や温度管理等がまだ不十分であり、生産・流通・小売の一体的な対策が必要。

カーネーションのコスト比較

日本(長野)		コロンビア
264千円/年	燃 油	0
パイプハウス 3,711千円	施設費※1 (10aあたり)	木造ポリフィルム 240千円
130千円/月	雇用労賃 1人あたり※2	260ドル/月 (約25千円)

28.7円	1本あたりの 生産コスト	14セント (約13円)
10.4円 (産地→市場)	1本あたりの 輸送コスト	12~15セント (ボゴタ→成田)

※1:コロンビアは台風がなく、簡易な施設で充分である。
 ※2:長野県は最低時間賃金(713円)より計算

ボトリチス菌について

- ボトリチス菌は、花きにとって大敵となるカビの一種で、灰色カビ病の要因となる。
- 日本では一般的な病害であるため、温湿度管理の徹底や農薬の散布が必要。そのためのコストが上乗せされる。

カーネーションの鮮度管理について

- 採花後の選別は、日本では常温で行われるが、コロンビアでは2~3℃の室内で行われ、以後空港までは低温で輸送される。
- また、輸入品は長期輸送が前提のため、抗菌剤や栄養剤等の薬剤の使用等、鮮度管理が徹底している。
- 輸入品は、日本の空港に到着後は、温度管理が寸断されるため、市場、小売店への流通は国産と同じ温度条件となる。

＜参考＞花きの国産シェアの奪還！一日持ちの良さなど国産花きの強みを生かせる流通体制の確立

- 輸入花きからシェアを奪還するには、国産花きの鮮度、日持ちの良さ等の強みを活かすことが重要。
- 消費者が品質として重視する「日持ち」を良くするために、①温度管理(コールドチェーンの確立)、②衛生管理、③鮮度保持剤の使用等を生産・流通・小売各段階で徹底。

＜国産花と輸入花の採花から小売店までの期間＞

日数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
輸入花き (コロンビアのカーネーション)	採花	梱包	空港		空港			成田空港	分荷	市場セリ	小売店
国産花き	採花 調整	市場セリ	小売店								

温度管理が不徹底 (輸入花き) / 温度管理が徹底 (国産花き)

資料:市場関係者からの聞き取り

○ 花の鮮度・日持ち性をより向上する流通体制の確立

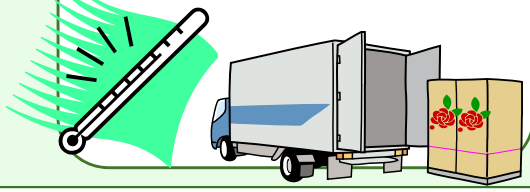
産地

- ・採花後の前処理(抗菌剤等で水揚げ)の実施
- ・出荷前の温度管理(低温保管)等の徹底



市場

- ・配送施設、卸売場の低温化
- ・輸送時の温度管理(積載前のトラック庫内の冷却等)の徹底



小売店

- ・市場から店舗まで搬送時の温度上昇の防止
- ・入荷時の適切な水揚げの実施、低温ショーケースの利用等



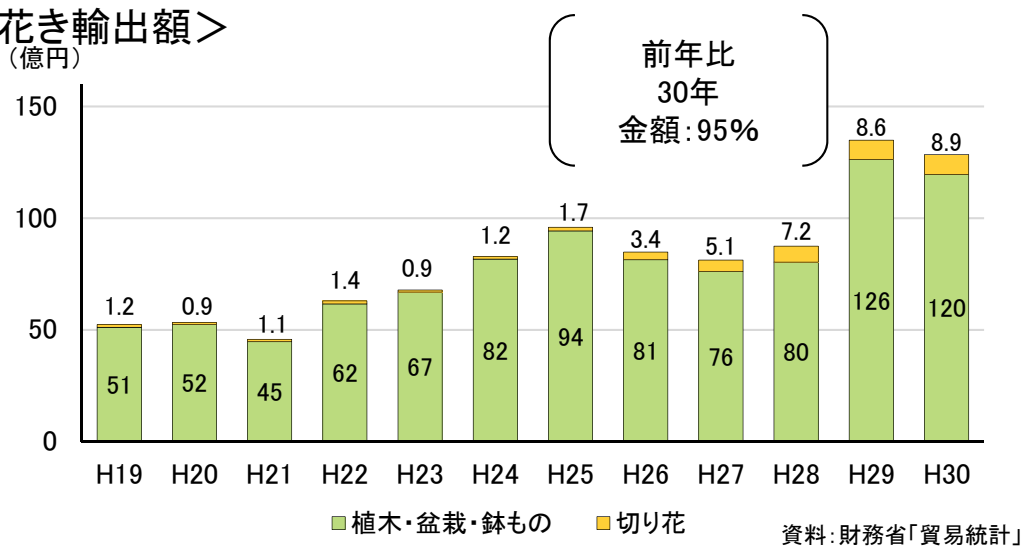
産地表示、日持ち保証販売により国産の強みを強調

4. 花きの輸入・輸出

(2) 花きの輸出①(現状と目標)

- 平成30年の花き(輸出重点品目)の輸出額は129億円で、前年よりやや減少。輸出額の大部分が植木・盆栽・鉢もの。切り花については絶対額が少ないものの、現地プロモーション等により着実に増加。
- 平成28年5月にとりまとめられた「農林水産業の輸出力強化戦略」に基づき、大量生産国にはない日本産花きならではの魅力を発信し、平成31年には植木・盆栽・鉢もの、切り花で輸出額150億円を目指す。

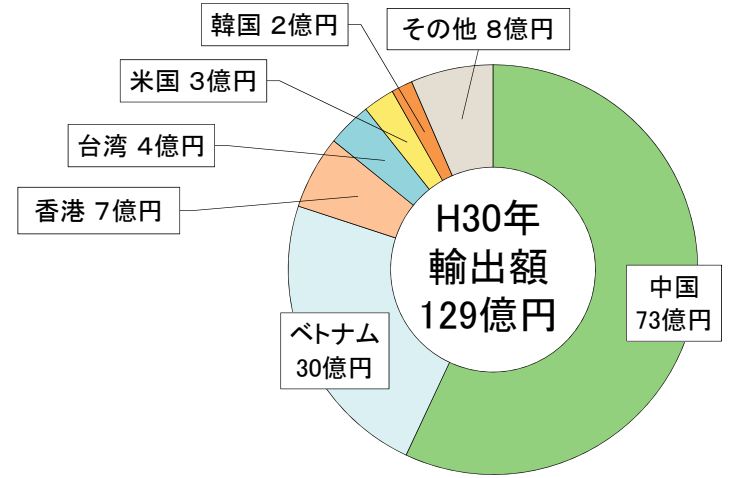
<花き輸出額>
(億円)



		H30年実績		H31年目標	
		輸出額(億円)	主な輸出先	輸出額(億円)	主な輸出先
輸出重点品目	植木・盆栽・鉢もの	119.6	中国、ベトナム、香港	140	中国、香港、EU
	切り花	8.9	香港、米国、韓国	10	香港、シンガポール、米国、カナダ、ロシア
	合計	128.5		150	
球根類他		1.7			
総合計		130.2			

資料: 財務省「貿易統計」

<国・地域別花き輸出額>



日本産花きを使った
デモンストレーション(米国)

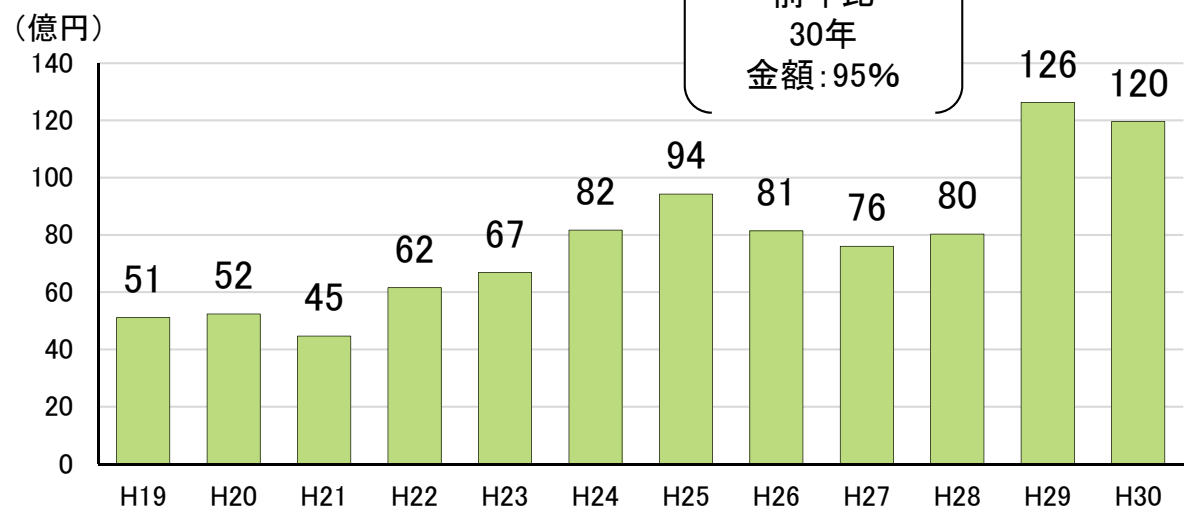


4. 花きの輸入・輸出

(2) 花きの輸出②(植木・盆栽等の輸出)

- 植木は、その美しさが本物の日本庭園を求める富裕層に評価され、花き輸出の柱。盆栽は、世界共通語の「BONSAI」として、EU(イタリア、スペインなど)、中国、南アフリカなど世界で人気。
- 昨年(2017年4月27日～4月30日)、世界盆栽大会が28年ぶりに我が国(さいたま市)で開催され、農林水産省においても輸出向け売店コーナーに植物検疫カウンターを設け、インバウンドを含めた輸出の促進を図った。
- EU向けクロマツ盆栽について、輸出解禁に向けた検疫協議中(2016年3月に解禁要請)。

<植木・盆栽・鉢ものの輸出額>



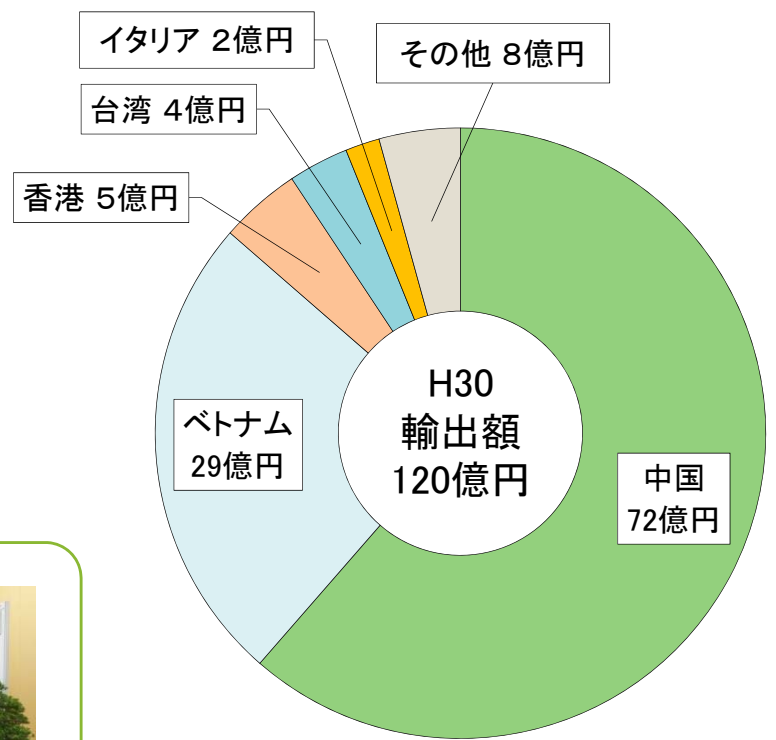
【第8回世界盆栽大会inさいたま】

会期: 2017年4月27日～30日
 会場: さいたまスーパーアリーナ大宮ソニックシティ
 ほか
 成果:
 (来場者)
 ・一般: 約45,000人
 ・愛好家: 約1,200人(うち外国人: 約800人)



植物検疫カウンター

<植木・盆栽・鉢ものの輸出額(国・地域別)>



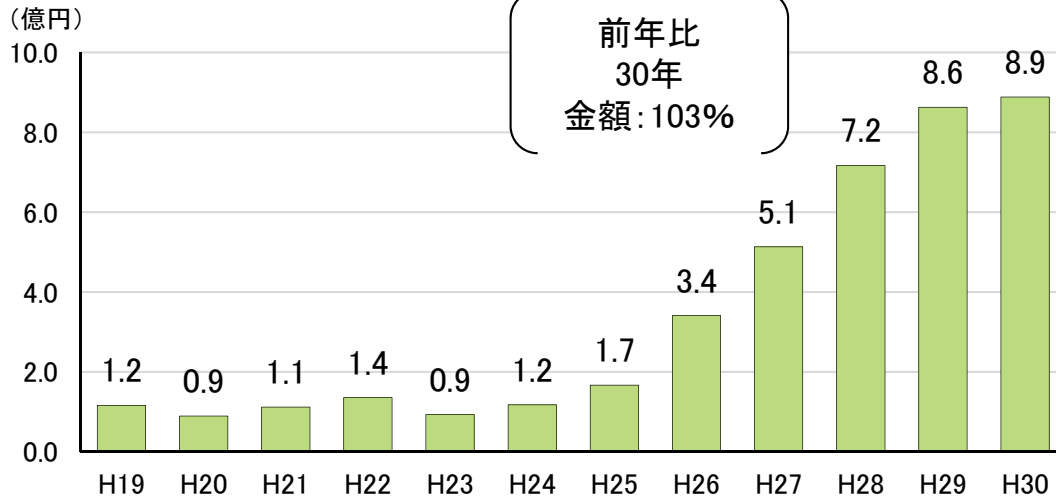
資料: 財務省「貿易統計」

4. 花きの輸入・輸出

(2) 花きの輸出③(切り花の輸出)

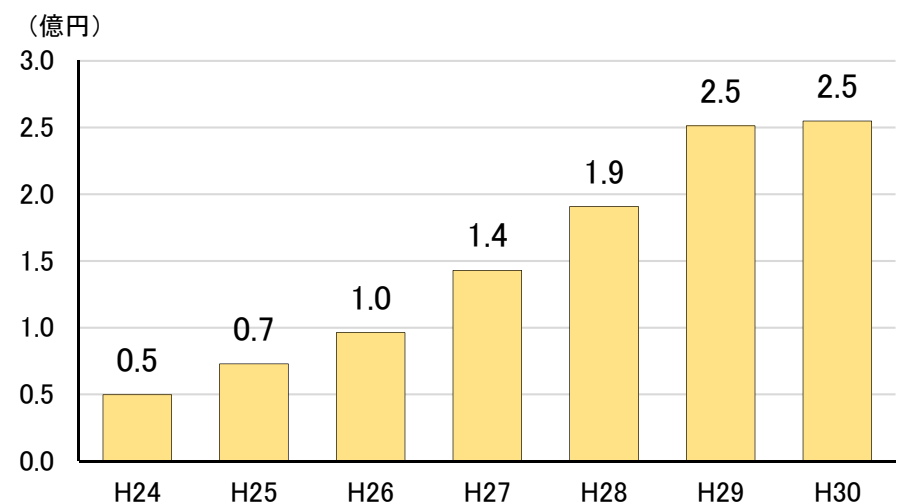
- 平成30年の切り花輸出額は、8.9億円に増加。
- 特に、米国においては富裕層向けパーティやファッションイベント等において、他にはない花やゴージャスな花材に対する需要があり、高品質な日本産花きの輸出拡大に向けた取組を開始したことで、平成29年の米国への切り花輸出額は2.5億円と平成24年の約5倍に増加。

＜切り花の輸出額＞



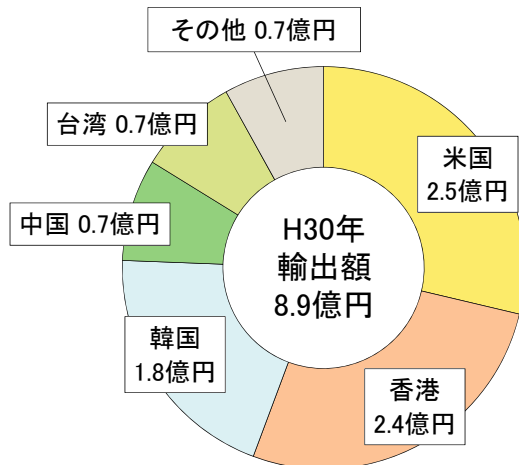
資料:財務省「貿易統計」

＜米国への切り花の輸出額の推移＞



資料:財務省「貿易統計」

＜切り花の輸出額(国・地域別)＞



資料:財務省「貿易統計」



NY総領事館で開かれた
天皇誕生日祝賀レセプションに
飾られた日本産グロリオサ

4. 花きの輸入・輸出

(2) 花きの輸出④(各国の事例)

輸出先国の先進事例



【切り花輸出先進国ケニアの調査事例】

- 外貨獲得のため、国策としてバラを中心とした切り花の生産及び輸出を振興。オランダ、コロンビアに次ぐ世界第3位の切り花輸出大国。
- ケニア統一ブランドを立ち上げ、EUにおいてオールケニアでの共通プロモーションを実施。
- 産地から空港までコールドチェーンを完備。
- 生産者が生産から加工、輸送、海外マーケティング、ブランディングまで完結した取組。
- MPS等環境認証への取組も積極的。



ケニア共通ブランド



産地の保冷库



コールドチェーンを完備



生産者の保冷車



産地で輸出先国のニーズに合わせた生産・加工



空港隣接の検疫所の保冷库

輸出重点国



【輸出重点国シンガポールの調査事例】

- シンガポールは東京23区と同程度の広さに人口約561万人(2017年)の多民族国家であり、また、外国人の居住者が多い国である。
- 農地はほとんどなく、国内の花き生産は蘭類のみであるが、ガーデンシティと呼ばれるほど、植物が多い環境から、花に対する興味・関心は高い。
- 近年、中国、EU、アフリカ等世界各国からの花きを輸入しているが、品種数は少ない。



輸入に大きく依存した切り花市場

キーパーを備えた店舗



【輸出重点国香港の調査事例】

- 東アジアの物流拠点として、極めて重要な鉢物・切り花の輸出先。マカオのカジノへの転送も多い。
- 春節やバレンタインデーを中心に、赤や黄色等の縁起の良いとされる派手な色合いの花の需要が伸びる。ショッピングモールやホテル、広場等での需要も多い。
- 多様で繊細な色合いの日本産の認知度向上が課題。



賑わいを見せる花屋街と派手な花束



ホテルのロビー



モール玄関

4. 花きの輸入・輸出

(2) 花きの輸出⑤(今後必要とされる取組)

産地間連携により日本産花きと花文化を世界へ輸出！

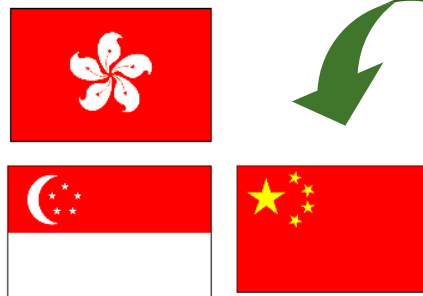
花き文化の成熟したEUや新たな需要が見込まれるロシアへ！



今後も海外市場調査を通じ、新たな販路を開拓！



太平洋を横断、北米大陸へ！
(米国・カナダ)



経済成長著しいアジア新興国へ！
(香港・シンガポール・中国)



必要な取組

- 海外の市場実態等情報収集
- 花文化と併せて日本産花きを情報発信
- 長距離輸送に耐える品質管理技術の向上
- センチウ防除技術の開発等植物検疫への対応
- 海外からのバイヤーの招聘